

I. 2020年度 決算

- セグメント業績

[対前年度比較]

<航空宇宙>

販売面では官需はほぼ横ばい。民需は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響により大幅に減少。固定費の削減を推し進めるも、損益は赤字転落。前回予想に対しては、民需の売上が落ち込むも、経費削減により赤字縮小。

<産業機器>

油圧機器は中国の景気回復を受けて需要が増加したものの、プラント用熱交換器製造の不適切な行為の発覚を受けて、同製品の営業・製造を一時的に停止していた影響等をカバーするには至らず、減収減益。前回予想に対しては、同熱交換器の取引再開が進むも、想定していた生産量を確保できなかったこと等により採算性改善が進まず損益後退。

<ICT>

MEMS・半導体製造装置において、当年度は顧客投資が一時的に減少する端境期にあたり、受注減少に伴い減収減益。前回予想に対しては、販売微増。損益は、増収効果および経費削減等により改善。

	<対米ドル為替(期中平均)>	<109>	<106>	(億円)	<105>
		2019年度 通期 実績	2020年度 通期 実績	対前年度 差異	前回 通期 予想
売上高		510	415	-95	415
航空宇宙		267	201	-66	205
産業機器		115	111	-4	110
ICT		128	102	-26	100
営業利益		33.5	-5.0	-38.5	-10.0
(営業利益率)		6.6%	-1.2%	-7.8%	-2.4%
航空宇宙		11.2	-12.3	-23.5	-15.5
産業機器		4.2%	-6.1%	-10.3%	-7.6%
ICT		6.8	-0.1	-6.9	1.5
		5.9%	-0.1%	-6.0%	1.4%
		15.5	7.4	-8.1	4.0
		12.1%	7.3%	-4.9%	4.0%

(注) 当社は、当年度よりセグメント区分の変更を行っており、2019年度についても変更後のセグメント区分に組み替えた数値にて比較しております。

営業外損益： 経済環境の停滞影響を受け、持分法適用会社であるシロ・セシグ・シムズ社の業績が後退し、営業外収益減。一方、為替は1年を通じて安定的に推移したこと等に伴い、為替差損が縮小し、合計では前年度から営業外損益好転。

特別損益： プラント用熱交換器製造の不適切事案に関連して、該当製品を出荷した顧客への補償等について、前期からの交渉進展に伴い再度見積り額を試算した結果、新たに顧客補償等対応費用引当金繰入額14.9億円を特別損失に計上。

配当： 安定的な配当継続を基本方針としておりますが、業績の大幅な悪化に加え、新型コロナウイルス感染症拡大が未だ収束する気配が見えない不透明な状況にあることから、手元流動性を確保することが最善と考え、誠に遺憾ながら期末配当は無配とさせていただきます。

	<対米ドル為替(期末)>	<109>	<111>	(億円)	(参考)
		2019年度 通期 実績	2020年度 通期 実績	対前年度 増減	<105> 前回 通期予想
売上高		510	415	-95	415
営業利益		33.5	-5.0	-38.5	-10.0
(営業利益率)		6.6%	-1.2%	-7.8%	-2.4%
営業外収益		6.8	4.7	-2.1	4.5
営業外費用		-10.5	-4.2	6.3	-4.0
経常利益		29.8	-4.5	-34.3	-9.5
(経常利益率)		5.8%	-1.1%	-6.9%	-2.3%
特別損益		3.1	-14.4	-17.5	-
税引前当期利益		32.9	-18.9	-51.8	-9.5
当期純利益		10.0	-25.8	-35.8	-13.0
EPS(円/株)		189	-487	-676	-246
ROE		3.6%	-9.6%	-13.2%	-
配当 (円/通期)		0	0	0	未定

[対前期比較]

<航空宇宙>

民間航空機向け機器は依然として新型コロナウイルス感染症による受注の低迷が続き、加えて、防衛装備品の特需が前期までに一巡したこと等もあり、減収減益。

<産業機器>

中国の力強い回復を受けて油圧機器が需要増。プラント用熱交換器も取引再開進展等による受注増加により、増収増益。

<ICT>

MEMS・半導体製造装置の顧客投資が端境期にあった前期に対し、増収増益。

	<対米ドル為替期中平均>	<106>	<105>	(億円)
		2020年度 通期 実績	2021年度 通期 予想	対前期 増減
売上高		415	447	32
航空宇宙		201	185	-16
産業機器		111	145	34
ICT		102	117	15
営業利益		-5.0	3.6	8.6
(営業利益率)		-1.2%	0.8%	2.0%
航空宇宙		-12.3	-16.3	-4.0
産業機器		-6.1%	-8.8%	-2.7%
ICT		-0.1	8.8	8.9
		-0.1%	6.1%	6.2%
		7.4	11.1	3.7
		7.3%	9.5%	2.2%
営業外収益		4.7	4.8	0.1
営業外費用		-4.2	-2.4	1.8
経常利益		-4.5	6.0	10.5
(経常利益率)		-1.1%	1.3%	2.4%
特別損益		-14.4	3.0	17.4
税引前当期利益		-18.9	9.0	27.9
当期純利益		-25.8	3.3	29.1
EPS (円/株)		-487	62	549
ROE		-9.6%	1.2%	10.8%
配当 (円/通期)		0	中間0、期末25	-

(注) 本資料の予想は、「収益認識基準に関する会計基準」企業会計基準第29号 2020年3月31日、及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日を適用しております。一方、比較する前年度実績はこれらの会計基準等を適用しておりません。

- 2020年度はフリーキャッシュフロー黒字化 (+3億円)
- 総資産は、事業環境における不透明感の強まりを受けて、金融機関からの追加借入を主体に手元資金を拡充。有利子負債が増加し、当年度末のD/Eレシオは 1.07 (NET D/Eレシオ 0.61)
- 2021年度 フリーキャッシュフロー予想 ▲14億円
熱交換器の不適切な対応に関連して、顧客補償等の見込み額として約16億円の支出を含む。

(億円)

	2019 年度末 実績	2020 年度末 実績	2021 年度末 予想
総資産	775	826	750
(内、現預金)	(82)	(122)	(100)
有利子負債合計	243	285	286
自己資本(純資産)	286	267	272
D/E レシオ	0.85	1.07	1.05
(NET D/Eレシオ) (※)	(0.56)	(0.61)	(0.68)
自己資本比率	35.4%	31.8%	35.6%
ROE	3.6%	-9.6%	1.2%
FCF	-3	3	-14

(※)NET D/Eレシオ = (有利子負債合計 - 現預金) ÷ 自己資本 (純資産)

(注) 本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想とは異なる場合があります。

以上